

特集

戦うケーブル

社運を賭けた 事業アイデア

すべては3.11と7.24がメディア状況を変えてしまった。後戻りなんてできない。そこで心あるケーブル事業者は社運を賭けて新しい事業モデルをひねりだそうとしている。総務省がどうかしてくれる。JCTAがなんとかしてくれるという時代は終わった。自分の頭で考え自分たちの運命は自分達で切り開く。当たり前といえばそれまでだが、3.11、7.24以降の新しいうねりの創出に繋がると思われる事業アイデアを4つばかり紹介しよう。(編集部)

愛媛CATV	29
上越ケーブルビジョン	31
TOKAIケーブルネットワーク	34
キャッチネットワーク	36



上越市板倉地区を2012年3月、深刻な地滑りが襲った。人はなすすべがない。津波や土石流と違い、ゆっくりと雪と土砂が人々の生活の場を容赦なく押し流す。地元ケーブル局(JCV)はコミチャンで番組として流すと同時に切断されたネットワークの回復のためにも努めなければならない。まさに「戦うケーブル」の現場だ(写真提供:JCV/2012年3月土砂崩れ現場で撮影)